

鷹の目の狩人

コレクターの心意気

I

しろはく古地図と城の博物館富原文庫
代表 富原 道晴

筆者は城郭研究家であり、古地図コレクターです。52年間過ごしたコレクターの世界は大海で一本釣りをするような、未知の探究と神秘の世界です。ときめきと驚きをどれだけお伝えできるかわかりませんが、ゲットする瞬間、瞬間の決断を迫られるという点で、技術開発や経済界とも共通する緊張の世界でもあります。

城郭研究家は未知の遺跡を調査し記録にとどめます。無から有を生じさせるのです。それは戦国時代の茶人、千利休の世界でもあります。絶対的価値観を要求される世界です。コレクターもこの価値観で勝負するのです。未知との出会いを求めて、あらゆる場に可能性を探ります。経済界ではより新しい出会いを人と物に求め、オンリーワン、ナンバーワンを目指します。すべての世界は共通するようには思えます。今日より明日を目指す者のみが生き残れるのです。大企業であっても時の流れに取り残される者は生き残れません。今に満足せず、一層の高みを目指すのです。コレクターに満足はありません。常に次の瞬間と出会いを求めています。

筆者のターゲットである城郭、古地図、銃砲、絵葉書の原点は城郭です。城郭から派生しています。核というものが、アメーバのように拡散するということで、リスクを抑えています。それでも、新たな挑戦は失敗につながります。ただ、失敗を恐れては、新しい世界に踏み込めません。挑戦による拡大は事業拡大に不可欠なのです。常に出会いを求める、挑戦を繰り返す。自己を改革する勇気と決断が求められます。どこにいても自分の役割を理解し、今、何をすべきか、今、置かれた立場で何ができるか、時と場所を考えるのです。24時間勝負です。車、リビング、寝室、書斎、会社のすべてにメモを置き、発想を記録し、実行するべきか考えるのです。

コレクターはその世界の今を自覚しないと勝負できません。常に鷹の目を見て、瞬間の決断ができるように準備する必要があります。人と同じ位置にいては、生涯、コレクションを手にはできません。既存世界の頂点を見極め、頂点から出たものを刈り取ることができなければ、猫に小判です。素晴らしいものがただ目の前を通り過

ぎてしまいます。事業でも、ビジネスチャンスを得るには常に既存の頂点に位置し、チャンスを生かす知識を身に付けていなければ、チャンスを見ることもありません。繊細な、研ぎ澄まされた目を持っていれば、チャンスは自らやってきます。コレクションも、その分野で最大のコレクターになれば、チャンスは飛び込んできます。

民間最大の城郭と古地図のコレクションとして、しろはく古地図と城の博物館富原文庫で約15万点の資料を所蔵しています。ただ、錦絵や古地図といったコレクションのみが価値があるわけではありません。ごみといわれても、そうとしか言いようのない、城のボトル、鳥籠、城や地図を印刷した包装紙、絵葉書も重要なコレクションアイテムです。コレクターとは、独自の目的を持つ未知の求道者です。経済界や技術世界と違った価値観を持つ人々がそこにいます。筆者も、仕事では製版、写真、印刷、新聞、段ボール、流通、グラフィック、環境、営業、開発といった価値観の異なる世界を歩んできました。大阪、金沢、東京、群馬といった土地にも住まないという理解できない多くの出来事があります。文化財、城、骨董、古地図、絵葉書にも別の世界があります。これからも、異次元の世界から何かお届けできるものがあればと考えています。



しろはく古地図と城の博物館富原文庫への入口

CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH